

平成 29 年 第 8 回

富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 7 月 28 日 (金)

開会午後 1 時 30 分、閉会午後 2 時 28 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 米田 猛

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 村上 美也子

5 番 藤重 佳代子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 山下 康二

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課食育安全班長 林 嘉子

V 傍聴人数 2 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 30 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 29 年 6 月 30 日開催の平成 29 年第 7 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 報告事項

(1) 国の登録有形文化財(建造物)の登録について

生涯学習・文化財室長から説明した。

(2) 教員の懲戒処分について

(3) 富山工業高校における体罰の発生について

教職員課長から説明した。

(4) 平成 29 年度中学校第 3 学年生徒及び県立高等学校全日制課程第 3 学年生徒の進路希望調査結果について

県立学校課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後 1 時 56 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議決事項 2 件については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 28 号 審査請求に係る決定に関する件

議案第 29 号 平成 30 年度富山県立高等学校及び富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

5 議事

○報告事項について

報告事項（1）関係

〔藤重委員〕

- ・旧田中家住宅というのはどの辺にあるのか。
- 〔生涯学習・文化財室長〕
- ・旧新湊の海老江地区で、下村北部、海岸線の方にある。

報告事項（3）関係

〔山崎委員〕

- ・3~4年前、体罰を防止するというのでアンケート等を配布して指導を徹底するということがあったと思うが、今回このような体罰が発生した。これまでの間は体罰は発生しなかったのか。

〔教職員課長〕

- ・24年度に国からの調査も踏まえて、発生した40数件の処分を行ったことがあった。それ以降では、今回のもので3件目になる。1件県立高校、1件公立中学校、そして今回の3件である。

〔山崎委員〕

- ・毎年指導を行っているのか。

〔教職員課長〕

- ・色々な会議の機会を通じて職員の規律の確保について注意喚起しているところだが、その中には体罰という文言も入れて発言している状況である。

〔教育長〕

- ・6月の頭、1週間のうちに2件盗撮系の事案で教諭が逮捕されるということが起こり、その際にも申し上げていた。盗撮だけでなく、県民の方々の信頼を失墜することはたくさんあった。教科書問題もそうである。いずれにしても各学校現場において、最高責任者たる校長の皆さんから教諭の皆さんに直接繰り返し声をかけていただく、注意喚起していただくことをお願いしているところであり、その通りになっていると思うのだが、その中でまた再び体罰に関する事案が発生したことは、誠に遺憾に思っている。今後こういうことが起こらないように、さらにきちんとした対応をしていきたい。

〔町野委員〕

- ・今回は顧問教員ということだが、そこまで注意喚起がされているのかどうなのか。顧問のところまで話が伝わっていない可能性もあるのではないかと。

〔教育長〕

- ・今回の顧問は学校の教員であり、そこは徹底されている。ただ、おっしゃるとおりテクニカルな面で外部の地域の方々にもお願いしているところもある。元々は地元のスポーツ団体の方からご推薦いただいて一定の資格を有する方に依頼しており、教諭からという意味ではなく、いわゆるスポーツの学校以外の指導者の体罰事案は聞いたことはないが、そういう事案が発生しないようにそちらの方にも周知徹底していきたいと思う。

〔村上委員〕

- ・これでバレー部の先生は指導から離れるのか。多分とても強いチームじゃないかと思うが、結局そういった意味で一生懸命練習していた子どもたちが大きな影響を受けて、練習を続けられなくなってしまう可能性もあると思う。これから外部コーチがたくさん来られることになると思うが、しっかりとやっていただきたいと思う。

〔米田委員〕

- ・体罰だけでなく、先日もどこかの県の小学校で、担任教諭が暴言を吐いて「窓から飛び降りろ」とか、明日から32人でやっていくとかいう事案があった。校長先生から色々お話をしてくださっているとは思いますが、体罰はいけないことであるというだけでなく、なぜ体罰がいけないのか、体罰は教育にならないということをきちんとおっしゃっていただく必要がある。担当課長からもおっしゃっているとは思いますが、校長先生からも、法に違反するからいけないというだけではなく、もっと子どもたちの心理的な面についても言い

てあげないといけない。体罰はいけないということは分かっているけれども、こういう事案が出てくるというのは、子どもたちの心理的な面についてよく分かっていないところがあるのだと思う。そのあたり、校長先生がきちんと説明できるようにしていただけたらと思う。

報告事項（４）関係

〔山崎委員〕

- ・6 ページ目の上の表で、まだ確定はしていないのだろうが、中学校卒業予定者の中の県立高校希望者数が大変多いのだということを改めて見させてもらった。またその中でも、64.3%が県立学校の中の普通科を希望しているという状況が分かった。ただ改めて驚いたのが中学卒業予定者数であり、前々から聞いていたが1万人を大きく割っているということである。前年と比べて457人減っているわけで、多分数年前に報告があった時は、この年の卒業予定者数はもうちょっと多かったように思うが、予定者数だから減っているような気がする。昭和63年をピークに約21年間で1万人近く減って、毎年440人ほど、急激に減って行って、平成22年から一旦は落ち着いていたのだが。平成30年には、予想されていたというものの、これだけ大きく減るということは、学級数を大きく減らさざるを得ない状況だということに思っている。具体的には、おそらく新たに1学年3学級の学校が出てこざるを得ないのではないかという感じで見ていた。

〔教育長〕

- ・ご指摘のとおり、平成22年はほとんど横ばいだった。1万人台を何とかキープしていたのだが、平成30年度には457人減少というと、単純に40人クラスだと12クラス分になる。公立と私立で率があるが、それらで12クラスを減らすような形になる。これは再編の議論になるが、平成32年度からさらに加速がついて少なくなる見込みがある。そこで今、総合教育会議の中で色々ご意見いただいているところであるが、実際にこういう数字で見るとは迫力があると感じられるのはその通りだと思う。そういった中で公立志望が非常に多いというのは、従前と同じような傾向であり、こういった中で子どもたちの希望・ニーズにどう応えていくのかが課題になろうかと思っている。

午後2時28分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。